



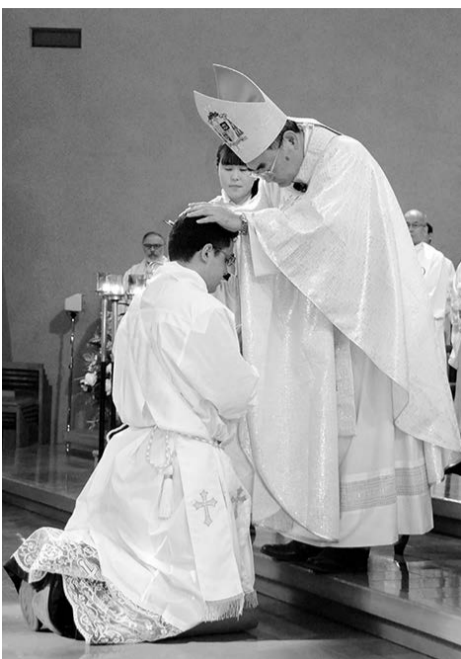
〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099(226)5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# ボグスワフ霧島 彬神父誕生

## 中野裕明司教による初の司祭叙階式で

12月29日(土)鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で中野裕明司教による初の司祭叙階式があり、始良教会出身のボグスワフ霧島彬さんが司祭の聖位に上げられた。叙階された霧島さんは現在31歳、教区司祭としても修道会司祭を加えた教区で働く全司祭の中でも一番若い司祭の誕生となった。会場のザビエル記念聖堂には、年末にもかかわらず350人を超える信者が駆けつけ、若い司祭の誕生を祝った。



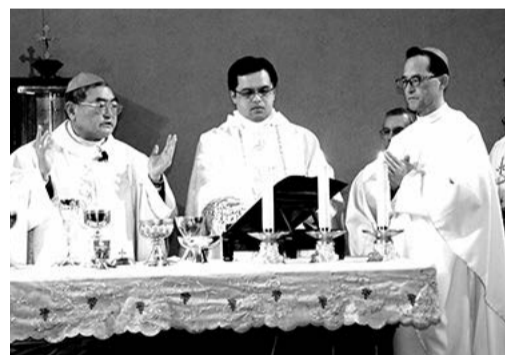
中野司教から授けを受ける受階者

霧島家の長男として1987年8月に生を受けた霧島彬さんが、教区の神学生としてローマ(教皇庁立聖十字架大学)に留学したのは2013年8月のこと。幼い頃、教会で侍者を務め信仰を育んでいた実りでもあり、高校卒業後、京都大学、同大学院へと進んだ霧島さんを司祭召命へと導いてくれたオプス・デイの司祭たちの働きの実りでもあ

った。  
午前11時からささげられたミサには、主司式の中野裕明司教と郡山健次郎名誉司教に教区で働く24人の司祭たち、またオプス・デイ関係として酒井俊弘大阪大司教区補佐司教と尾崎明夫神父、ラモン・ロペス神父も駆けつけてくれた。  
ヨハネ福音書朗読後に始められた「叙階の儀」では、石神秀人終身助祭の呼

び出して司教の前に進んだ受階者・霧島さんを司教総代理の泉浩二神父が司祭としてふさわしい者として証言すると、これを受けた中野裕明司教が「司祭に叙階する」ことを宣言した。  
その後、中野裕明司教は「司祭が司教の協力者であること」や「信者がひとつの家族になるよう努力するよう」という「司祭の務

め」について受階者と参列者に説教した。  
その後、司教と叙階される者の約束を交わした霧島さんは、床に伏して「諸聖人の連願」を受けた。連願が終わると中野裕明司教と参列した司祭たちから授けられた祈りを受けて司祭の聖位へと上げられた。叙階された新司祭は、司祭の祭服に着替え、司教から手に聖香油を塗られた後、パテナに載せたパンとカリスに入れたブドウ酒を受け、司祭団の一員として受け入れられ、中野裕明司教の隣でミサを進めていった。



ミサを進める霧島神父(中央)

ミサ後は、聖堂での記念撮影の後、会場をザビエル教会ホールに移して祝賀会が開かれた。  
祝賀会ではまず中野裕明司教が、霧島さんを導いてきた関係者にお礼を述べた後、新司祭に権限委任状を手渡した。また新司祭の大学生時代を導いてくれた酒井俊弘大阪大司教区補佐司教は、「司祭には自分が望

み、祈りと神の恵みによってなることができるが、司祭になると自分が望まないことも受け入れなければならない。しかし、だからこそ司祭職をまっとうすることは美しい」とメッセージを送った。  
その後は、教区司祭と修道者を代表して幼い頃を知っている小隈憲士神父が、また信徒を代表して始良教会の波江野房子さんが新司祭にお祝いの言葉を述べた。  
最後に挨拶に立った新司祭の霧島彬神父は叙階の記念カードの説明をし、叙階にかかわってくれた関係者に感謝の言葉を述べ、最後に家族を紹介した。  
叙階された霧島神父は今後も2年間の予定でローマで教会法を学んで帰国することになっている。

▼田代竜之さん  
笠利小教区は赤木名教会出身。26歳。洗礼名ヨゼフ。昨年、朗読奉仕者に選任されていたが、3月3日のザビエル教会での主日のミサで、祭壇奉仕者に選任される予定。

### 神学生の動向

▼諏訪勝郎さん  
愛知県出身の諏訪勝郎さんは、現在51歳。洗礼名ドミニコ。大阪芸術大学を卒業後、ポルトガルに留学した経験を持ち、西海市役所や奄美新聞社などで働くなど社会人経験も豊富。奄美大島での1年余りの生活の中で司祭への召命を感じ、2014年4月から教区神学生として日本カトリック神学院に入学し準備してきた。昨年、祭壇奉仕者に選任されていたが、この3月に助祭に上げられる見込みとなった。

### 司教の手紙



と論ずい

みなさまお元気でしょうか。今回から、私の紋章に用いた聖句についての説明を始めたと思います。紋章の聖句はご存じのとおり、「まず、神の国とその義をもとめよ」(マタイ6・33)です。「まず」とは「何はさておき」、あるいは、「とりあえず」という意味です。それはマタイ6章の25節から34節を読めばわかります。つまり、「思い煩うな」ということです。「だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲むかと、また体のことで何を着ようかと思ひ煩うな」(25節)と論ずい

## イエスと神の国

### 鹿兒島教区司教 中野裕明

「あなたがたの天の父は、これらのものがみな、あなたがたに必要なことをご存じである」(32節)、と天の父を心から信頼するように論じています。  
ところで、「思い煩い」の原因は何でしょうか。それは、大きな問題を抱えている場合はもちろん

り専心して祈るのです。そうすると、忘れていたことも思い出し、懸念していた事柄が好転することがあります。わたしはよくそのことを体験しています。  
「神の国」を求めるとは、「人間の国」に住んでいながら、その中に神の意思を浸透させることで

している状態です。これらの徳目をこの世に実現させた方は、もちろんイエス・キリストです。従って、「神の国を求めよ」とは、イエス・キリストを追求すること、と言いつつ直してもかまいません。  
つぎに「神の国」はいのちを持つていて、成長し、完成するものです。福音書は「からし種」や「パン種」の比喩を使って説明しています。(マタイ13・31参照)「いのち」の特徴は、小さい状態から大きくなる、ことですが、下手をすると萎んだり、亡くなったりすることです。従って私たちは、この命を大事に育てなければなりません。「人間の国」は人間の安全、安心を外面的に追求する国ですが、残念ながら、サタン(神に反抗する力)に牛耳られているため、(マタイ4・8-9参照)滅亡という憂き目に遭うことになりま



### 健やかな成長を願って 教会でも七五三の祝福



新年を迎えて、教区内の各教会では主日のミサの中で新成人や七五三の祝福があった。  
ザビエル教会では1月6日に七五三の祝福を実施。共同体で子どもたちの健やかな成長を祈った。

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもへの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。教区報では、生徒のためにと執筆した「ウガンダの旅2018」を数回に分けて紹介したい。

「地球あちこちウガンダの旅」があることを知ったのは、4月のことだったと思う。

と、そして、ナフリラちゃんには確かにカトリックであることを知っていくことになる。以前から女の子の支援を続けているのは、単純に我が家には男の子しかないから。

ナフリラちゃんは、WVJのウガンダにおける支援地のひとつ、ナラウエヨ・キシータ地区に住んでいて、この地区の支援は2004年から15年計画で予定されている。計画が始まったとき、ナフリラちゃんは

## ウガンダの旅2018

### ①「ウガンダとのつながり」

谷山教会信徒

岩崎正幸

2歳、わたしが支援を始めたのは6歳のときから。そして、この地区の支援は、来年で終了ということになるのだ。WVJでは、「地球あちこちウガンダの旅」という支援地訪問をほぼ毎

年地域を替えて行っている。ウガンダは8年ぶりということだ。8年前にもウガンダへの支援を始めていたのだから、気づいていてもいはずだが、まったく記憶がない。見落としていたのか、日程が合わなかったのか、アフリカなんて行けるはずないと思込んでいたのか。ともかく、今回の訪問の機会を逃したら、もう二度とナフリラちゃんとうことはできないわけだ。

そう考えると、今回、ちょうど夏休み中でもあるし、申し込みの手はないと思つた。さっそく申し込んだ。しかし、定員が20名と決まっていた、申込者が多い場合は選考があるとい

は、黄熱病の予防接種である。ウガンダをはじめ、多くのアフリカ諸国への入国には、黄熱病の予防接種が義務付けられていて、その証明書(通称イエローカード)をビザとともに示さないと入国できない。さつそく予防接種のことを調べて、インフルエンザの予防接種とはレベルが違った。接種が可能なのは全国で20か所ほど。鹿児島県では1カ所しかない。予約が必要で、毎月第3木曜日に、先着5名だという。6月の予約はもういっぱい、次は7月。7月の第3木曜日は、19日。接種後効果が現れるのは10日後から、そうすると、ちょうどウガンダ到着7月29日から、とい

う。締め切りが5月末。行けるか行けないかわからぬまま、1カ月以上待つことになる。

ことになってしまふ。「それでいいのかわからない」と思いつつ、ともかくイエローカードを手に入れなければとあせる。しかしである。なんと、「6月分のキャンセル

が出た」との連絡が5月の下旬に入る。幸運であった。6月21日無事接種完了。その場でイエローカードの交付。インフルエンザの予防接種と同じく、接種後その場で30分待機。体調のことよりも、イエローカードの名前の表記が正しいか、パスポートと同じかどうかを何度も聞かれた。これ、結構大事なカードなんだな。でも、パッと見、その辺のポイントカードと同じレベルのカードです、よ、と思ってしまう。(続く)

### +KABAYAN SEKSYON+ Si Sto.Tomas de Aquino at ang Eukaristiya

Si Sto.Tomas (1225-1274) ay isang paring Dominicano at Pantas ng Simbahan na sumulat ng maraming malalim na teolohiya. Sumulat din siya ng magagandang awit tungkol sa pagsamba sa Banal na Sakramento.

Ilan sa mga kilalang likhang-awit niya ay Panis Angelicus, Adore te Devote, O Salutaris Hostia, Pange Lingua Gloriosi at Tantum Ergo.

Mahusay na naipaliwanag ni Sto.Tomas ang iba't ibang dimension ng Eukaristiya.

“Nagbabago ang pagkaing materyal sa katawan ng taong kumakain at bunga nito, nagkakaroon siya ng bagong lakas at sigla. Sa kabilang banda, binabago naman ng pagkaing espiritwal ang mismong taong kumakain nito.”

“Samakatuwid, ang tunay na bunga ng Sakramentong ito ay ang pagbabagong-loob ng tao kay Kristo upang hindi na siya kundi si Kristo na ang nabubuhay sa kanya.

Gayundin naman, naibabalik ang espiritwal niyang lakas na nawala dahil sa mga kasalanan at kahinaan niya at napapalakas naman ang kanyang mga birtud at mga katangiang espiritwal.”

Tungkol sa presensiya ni Kristo sa Eukaristiya, sinabi ni Sto. Tomas: “Talagang kailangang-kailangang ipahayag ayon sa pananampalatayang Katoliko na ang buong-buong Kristo ay nasa Sakramentong ito.”

Ang nakikinabang sa Sakramento ng Eukaristiya ay nakikiisa rin sa kanya ang Diyos at nakikiisa rin sa komunidad.

Isang Tinapay, Isang Pamilya (Fr.Dino Orolfo)

イエローカードとパスポート

### カトリック通信講座

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助け、職員研修などにもご活用いただいております。

#### <全7講座>

- T 001 ☆キリスト教とは＝日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T 002 ☆聖書入門〔I〕＝四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T 003 ☆キリスト教入門＝キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T 004 ☆神・発見の手引＝人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T 005 ☆聖書入門〔II〕＝使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T 006 ☆幸せな結婚＝カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？

T 007 ☆生きること・死ぬこと＝老いや命、旅立つ人に寄りそうケアについて考える。

#### <受講料> (教材費・税込)

- T 001～T 004 各4,800円
- T 005～T 007 各5,300円

#### <お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号 (T 001～T 007) をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送りいたします。

振替口座番号：00170-2-84745  
加入者名：オリエンズ宗教研究所

#### <お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座  
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5  
TEL.03-3322-7601



# 教会の「愛のわざ」を学習

## 鹿兒島教区初のカリタスデー開催

1月14日(月)ザビエル教会で「カリタスデー in 鹿兒島」が開催された。この集いは、国内外への援助活動や国内で弱い立場に置かれた人々が人間らしい生き方を獲得するための啓発活動を行っているカリタス・ジャパンの活動を理解するとともに、各教会・団体・グループが行っている愛の



愛のわざの実践を訴える瀬戸神父

わざを分かち合い、教会の力にしようという目的で開催されたもので、鹿兒島教区では初めての試み。教区ではカリタス・ジャパンの教区担当者・川口茂終身助祭が中心となって、壮年、婦人、諸団体の協力を得て、実現させた。

午前10時から始められた集いでは、中野裕明司教が挨拶に立ち、東バキスタン難民(1971年)やインドシナ難民(1980年)への支援など鹿兒島教区における愛のわざの歴史を紹介し、「教区呼びかけに一般市民もこたえてくれた。まず教会が立ち上がることは大切」とメッセージを送った。

その後はカリタス・ジャパンの秘書・瀬戸高志神父(レデンプトール会)が「神のわざを今・We are

約1時間15分の講話の中で、瀬戸神父はカリタス・ジャパンの組織や働きを紹介し、その上で苦しみを人々と同伴することの大切さを回廊や聖歌を引用しながら「私たちには告げ知らせる役目がある。愛を持って苦しむ人々に寄り添う時にその愛のわざは人々に伝わっていく」と訴え、今日の集いで鹿兒島でどのような愛のわざが実践されているのかを知り、連携と協力で大きな力として欲しいと訴えた。

その後は、ホームレスの人々のためにシャワーを提供しているザビエル教会の活動に協力している田代皓子さんなど3人が愛のわざの協力者としてその思いを分かち合った。午後からは鹿兒島教区で行われている愛のわざの紹介があり、児童養護施設「愛の聖母園」

「Caritas」のテーマで講演した。

そして過去への不毛な郷愁に潜む度重なる誘惑を打ち負かさずつけかけとなりますように。また福音の喜びに満ちた新しさに向けて、わたしたちの心を開きつけたいと祈りますように」と述べている。そしてこの特別月間に向けての準備として四つの要素を教皇は示している。

## 10月は宣教のための特別月間

### 使徒的書簡発布から100年

第一次世界大戦(1914~1918年)後の1919年、教皇ベネディクト15世は、使徒的書簡『マキシムム・イルド』を發布して、「諸国民への宣教」を強調し、宣教という使命に對する意識を呼び起こそうとした。

それから100周年を迎える今年10月を教皇フランシスコは、「宣教のための

特別月間」とする書簡を一年前10月に発表し、その邦訳が昨年6月下旬、各司教・事務局長宛に送られた。

この書簡の中で教皇は「来たるべきこの書簡の100周年が、教会のあらゆる種類の内向性、自分のことだけを考へて安全な場所に閉じこもること、あらゆる形態の司牧的悲観主義、

①教会の中に生きておられるイエス・キリストとの人格的な出会い―聖体、みことば、個人もしくは共同体としての祈り。

②世界における教会の独自の表れである、聖人、殉

③「諸国民への宣教」に関する聖書的、教理的、霊的、神学的な養成。

④広範囲にわたる福音宣教活動、とりわけもつとも困窮している教会で「諸国民への宣教」とキリスト者養成を行うための物的支援としての宣教的な愛のわざ。

この長期的な準備のため、にフィロニ福音宣教省長官は、地元の観想修道会とともに祈りのうちに同じ意向で黙想することを提案している。

## 月刊『福音宣教』2019年のご案内

### 年間テーマ―かかわりを広げる

- 特別企画 リレー座談「私と、家族と、社会とのかかわり」晴佐久昌英(東京教区司祭)＋香山リカ(精神科医)、関根英雄(東京教区司祭)＋宮台真司(社会学者)＋E・ガクタン(淳心会司祭)以降継続
  - 新連載 「詩編の中の『わたしと神』」青木孝子(聖書学者)、「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」大瀬高司(カルメル修道会司祭)、「典礼と信仰教育―オリエンズ典礼セミナーⅢ」(4月号より)、「『先生、あの偉そうな赤ちゃん誰?』―神様をめぐる対話」小林由加(カトリック学校教員)、「典礼暦とともに、季節の味わい」柳谷晃子(台所料理人)
- ☆年11回発行(8・9月合併号)、1部600円(税・送料別)  
☆年間定期購読料7500円(税・送料込)
- <お申し込み>郵便振替用紙にて年間定期購読料をお振込みください。  
振替口座番号: 00170-2-84745  
加入者名: オリエンズ宗教研究所
- <お問い合わせ>オリエンズ宗教研究所  
TEL: 03-3322-7601 / FAX: 03-3325-5322 URL: https://www.oriens.or.jp

## 短信

▼キリスト教一致祈禱集会  
キリスト教一致祈禱週間(1月18~25日)中の20日(日)、谷山教会でプロテスタントの兄弟たちとカトリックがその一致のために祈るキリスト教一致祈禱集会が開かれた。

## 文芸

俳句  
純心聖母会 山頭信子  
すがすがし洗礼うけて  
露の臺  
祭壇に露のとう活ける  
主の洗礼

## 短歌

国分教会 市来房枝  
洗礼を受けし教会に姑  
の記念礼拝執り行ひき

## 会と催し 2月

- 2日(土) 主の奉獻 年間第4主日
- 3日(日) ボツフィ神父命日(1988年)
- 4日(月) 日本26聖人殉教者
- 5日(火) 年間第5主日
- 10日(日) 小島芳武さん終身助祭叙階式・川内教会・13時
- 11日(月) 聖ヨハネ・パウロ二世教皇は、1984年2月11日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡「サルヴェイフィチ・ドロリス」苦しみのキリスト教的意味」を発表し、翌年の2月11日には教皇庁医療使徒職委員会(現・保健従事者評議会)を開設しました。そして1993年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。
- また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者に対してだけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的霊的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。
- ハンマ神父霊名(ヨルダン)
- 13日(水) 出口市太郎神父命日(1958年)
- 14日(木) 年間第6主日
- 17日(日) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 19日(火) 聖ペトロの使徒座
- 22日(金) 鈴木康由神父叙階記念(2013年)
- 24日(日) 年間第7主日
- ▼オリープの会・教区本部・14時
- ▼市民クリスマス実行委員会・教区本部・19時
- 27日(水) 東條一浩神父命日(2001年)

〔司教日程〕2日修道女連盟講話、3~6日奄美大島訪問、10日終身助祭叙階式、12~15日定例司教総会

## 祈りの意向

世界共通 人身売買  
日本の教会 召命

ザビエル書院からお知らせ  
3月26日(火) 27日(水) は棚卸のため休業いたします。ご了承ください。

教区会計室からお知らせ  
教区長交代に伴い、教区会計で使用している鹿兒島銀行の通帳(とそ出張所 普通12500)の名義が「宗教法人カトリック鹿兒島司教区 代表役員 中野裕明」に変わりました。ご了承ください。



# 洗礼式を終えて

川内教会 平成中学校2年 野間口太一

クリスマスに洗礼のお恵みを受けた。母が4年前に洗礼を受けたので、僕も教会に興味を持ち、毎週通うようになりました。

それから僕も洗礼を受けたいと思い、シスター山頭に要理を覚えていただくことになりました。30回ほどでしたが、シスターが丁寧

に分かりやすく教会のことを教えてくださり、無事クリスマスに洗礼式を迎えることができました。

代父には西垣友貴さんをお願いしました。洗礼式の前には緊張していたら、隣で「そんなに固まらなくても大丈夫だよ」と声をかけてくれました。その言葉で緊張もやわらぎました。



洗礼式の後で記念撮影

洗礼名は、ミカエルをいただきました。実は直感で選んだ霊名ですが、後で調べてみると悪魔を退治する

大天使であることを知りました。僕の弱い心と戦うという意味ではピッタリの名前だと思えます。無事に受洗できたのは、ここまで丁寧に教えてくださったシスター山頭と支えてくれた母、代父の西垣友貴さん、そして川内教会の皆さまのおかげです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

# 司教さまと一緒に ザビエル教会学校クリスマス会

昨年末の12月16日(日)にザビエル教会学校のクリスマス会が、教区本部の2階会議室で行われました。会場には喜びの日にふさわしく、52人(リーダー含む)の親子が集まり、とても楽しいクリスマス会になりました。



教会学校リーダーたちによる「静けさ」の合唱のオープニングで始まり、子どもたちの御降誕朗読劇、クリスマス詩の朗読、そして、リーダーの「北斗七星」のストーリーテリングの後、工夫を凝らした親子の演奏や子どもたちが歌やダンス、ピアノ演奏を次々に披露してくれました。また小さなサンタさんも登場してくれました。たくさんの方から温かく

支えられた豊かな食卓を囲み、みんな神さまの子どもと一緒にビンゴゲームを楽しみました。中でも、中野司教さまが、子どもたち一人ひとりに話しかけてくださった時は、笑い声が最高潮！祝福を頂きました。子どもたちの大好きな神様から頂いた一年のお恵みに感謝する喜びの分かち合いの集いとなりました。

## KJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 2月号

昨年、名古屋で行われた「正義と平和全国集会」で新たな出会いがあった。都城教会の信徒の方である。参加者約250人の懇親会場で事務局の方が紹介してくれました。交流を図るために全国16教区ごとに自己紹介と活動報告を行うことになった。

大きな教区は、数十人が舞台で発表するのだが、大分・鹿兒島教区は今回はそれぞれひとりしかない。(前回の東京大会では、鹿兒島出身の司祭が2人いた

ので、計4人参加した)。そこで一緒にやりました。という事になった。その方が、宮下玲子さんである。翌週鹿兒島地裁に出廷し、「原発なくそう九州川内訴訟」の原告の一人として、意見陳述をするということであった。彼女が、どうして宮崎に移住したのか、訴訟に参加したのか、を一部要約して紹介したい。

「宮崎県都市に住んでおります。宮下玲子と申します。7年前に東日本大震災が起きた時、私は宮城県仙台市に住んでおり、震度6弱の揺れを体験しました。夫と当時2歳の息子と私の3人の家族はたまたま自宅におり、怪我もなく無事でした。しかし、東京電力福島第一原子力発電所が事故を起こしたというニュースを聞き、夫と相談して、息子を連れて避難することを決めました。息子がまだ2歳だったこともあり、放射能汚染による健康被害を心配しての決断です。(中略)

家屋の倒壊や津波ではなく、放射性物質という人間の目に見えないものによる被害、しかもまだ起きていない被害を想定して、東北から九州まで避難移住することが子どもにとって本当によい選択なのか、母親である私自身も悩みながらの決断でした。(中略)

原発事故を経験していない九州の人たちには理解されないのでは、放射能汚染への懸念を理由に宮崎にきたことを、自分から話すことはほとんどありません。しかし、周りの人の目を気にして口をつぐむことが本当に良いことなのか、自分の子どもだけではない、これからの日本を生き抜いていくすべての子どもたちのために最善をつくすべきではないかと考えた時、私は黙っていることができ

## と子ども食堂

ご寄付は下記の口座にお願いします。  
☆ゆうちょ銀行：と子ども食堂  
店名 七八八 店番 788  
普通預金 口座番号 3225173  
☆鹿兒島銀行：と子ども食堂  
県庁支店 普通預金 3019349

## 康由神父の聖書教室(10)

### 善いサマリア人のたとえ 古代イスラエル史から②



た。彼らは捕虜に衣服を着せ、履物を与え、飲食させ、油を注ぎ、弱った者がいれぼろばに乗せ、彼らをしゅろの町エリコにいるその兄弟たちのもとに送り届けて、サマリアへ帰った」と書かれていきます(歴代下28・15b)。

イエス様が語ったサマリア人の行動、即ち、「旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した」という言葉は(ルカ10・34)、まさに歴代誌の記述に基づくものです(歴代下10・33・34)。では、このたとえ話によってイエス様は一体、何を語ろうとしていたのでしょうか？ 単に、「憐れみによって自分が誰かの隣人になりなさい」ということでしょうか。

シリアーエフライム戦争と歴代誌に基づけば、同胞の分裂という問題がこの話の根本にあると言えるでしょう(ルカより)。



### 追記

先月号で紹介した佐々木孝さんが12月20日(木)に帰天されました。入院して三日後の死です。その前日に病室から発信されたことばは「わたしたちの心は燃えていたではないか」です。ご冥福を祈ります。(紫原教会 山下和実)

### 社会問題の分かち合い

(毎月第三土曜日)  
日時：2月16日(土曜日) 13時~16時  
場所：教区本部  
内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他